

水道スマメ実証実施へ

木城町、NTT西、NTTテレコン

木城町（宮崎県、半渡英俊町長）、NTT西日本宮崎支店（横奥宏明支店長）、NTTテレコン九州支店（中島伸樹支店長）は2月3日、「水道スマートメーター実証実験の実施に関する協定」を締結した。NTTテレコンの端末及びシステムを活用し、水道メーターの遠隔検針を実証。見守りサービスへの適用についても検討する。

地方自治体における公共施設・道路・水道などのインフラ整備に関わる事業費などは増加傾向にあるとともに、その事業に携わる人材についても慢性的な不足が課題となっており、DX化の推進による業務効率化が急務となっている。協定は、木城町における水道関連業務のDX化に向け、NTTテレコン製の通信端末と集中監視システムを活用した、水道メーターの遠隔検針について実証実験を行うもの。

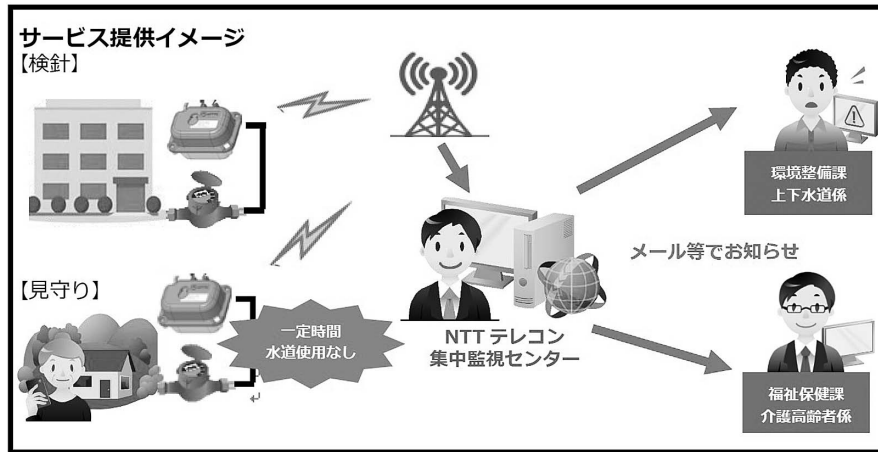
NTTテレコン製の通信端末と電子式水道メーターを接続することにより、NTTテレコンの集中監視センサーを介して木城町役場にて水道メーターの遠隔検針を行う。また、漏水情報の機能を活用し、蛇口の閉め忘れ等のトラブルの早期発見の可能性も期待できることから、実証実験を通じて、業務の稼働削減や住民サービスの向上について、定量的な効果測定を行う。

加えて、水不使用警報や水使用状況の情報を活用することで、独居老人の見守りサービスへの応用が期待できることから、実証実験により見守りサービスへの適用についても効果測定を行う。

木城町が実証フィールドを提供。NTT西日本宮崎支店が、水道検針データの分析及び上下水道業務のDX化に向けた検討を、NTTテレコン九州支店が遠隔水道検針サービスの提供及びデータ化をそれぞれ担当する。

実証実験を通じ、遠隔検針による業務効率化の効果を定量的に評価するとともに、通信端末を通じて収集されるデータを活用した見守りサービスの向上に向けたDXの推進についても検討していく考えだ。

また、実証における報告会等の場を活用し、NTT西日本が提供する上下水道関連業務のDXに資する各種商材やサービスについての活用の可能性についても検討を行う。



サービス提供のイメージ